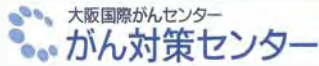


大阪府の全国がん登録データにおける エラーと届出数や届出様式との関連



花原 聡, 久馬 麻希, 石田 理恵, 原 加奈子, 加藤 美寿季,
梶原 麻里, 栗原 佳宏, 森島 敏隆, 中田 佳世, 宮代 勲

背景・目的

大阪府では、毎年10万件近いがん情報の届出を医療機関から受け付けている。都道府県がん登録室として、がん登録を行う実務者に対する支援を行い、登録に伴うエラーを減らすことが、登録精度向上においても重要であると考えられる。2019年からは、がん登録オンラインシステムを用いたCSV届出におけるオンラインチェックが強化された。今後の届出医療機関への支援を行うにあたり、経年的なエラー発生状況の推移と、それに影響する要因を明らかにすることを目的とした。

方法

大阪府がん登録に届け出られた全国がん登録データの2018～2020年診断症例を対象に、医療機関からの届出時のエラーに関する年推移、届出数や届出様式との関連を検討した。医療機関ごとに算出した届出数あたりのエラー件数をエラー頻度と定義した。

結果

1. 全体での検討

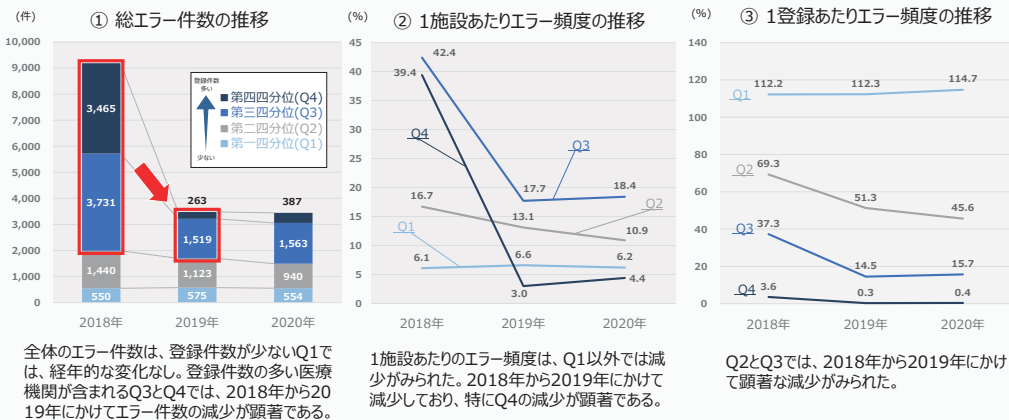
2018年～2020年の年次推移は、医療機関数と届出件数は、ほぼ横ばいであった。エラー件数は2019年に顕著に減少しているが、2020年では変化がみられなかった。(表1)

表1.大阪府がん登録室の届出数およびエラーの年次推移

診断年	医療機関数	届出件数	1施設あたりの平均登録数	エラー件数	1施設あたりのエラー頻度	1登録あたりのエラー頻度(%)
2018年	352	107,999	307	9,186	26.1	8.5
2019年	346	113,134	327	3,480	10.1	3.1
2020年	347	106,483	307	3,444	9.9	3.2

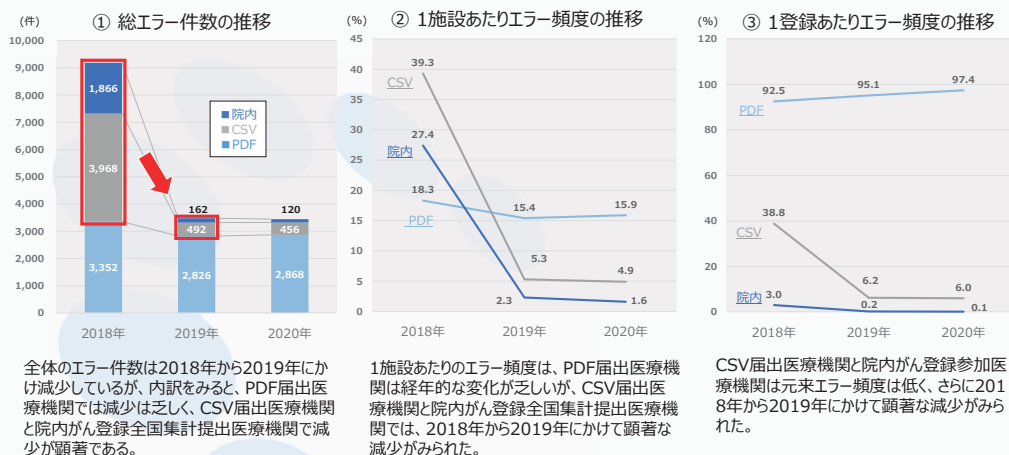
2. 届出数別による検討

対象医療機関を登録件数に基づき四分位に分け、それぞれの推移を検討した。



3. 届出様式別による検討

対象医療機関を届出様式に基づき、院内がん登録全国集計提出施設(全てCSV形式)と、それ以外のCSV届出医療機関、PDF届出医療機関の3つの群に分け、それぞれの推移を検討した。



結論

2019年のオンラインチェック強化の前後で、大阪府がん登録におけるエラーは顕著に減少した。エラーの減少は登録件数の多い医療機関で顕著であった。またPDF届出の医療機関では、減少が認められなかった。PDF届出かつ登録数が少ない要因を併せもった医療機関がエラーの主要な発生源となっていると考えられる。登録件数の上では小さな割合であるものの、エラー対応の負荷を軽減し、がん登録業務の精度を向上するためには、これらの医療機関のエラーを減少させる取り組みが重要であると考えられる。